

EA760FD-2A(金属探知器)取扱説明書

この度は当商品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
ご使用に際しましては取扱説明書をよくお読み頂きますようお願いいたします。

金属探知器を以前にご使用の経験がない場合、
次のことを行ってください。

- 1) 誤った信号が発生した場合、感度を低い設定値に調整してください。初めは必ず低感度のレベルで使用してください。探知器のご使用に慣れた後に限り、感度を上げてください。
- 2) 屋内で使用しないでください。本探知器は屋外専用です。家庭用機器の多くが電磁波を放出し、探知器の検出を妨害します。屋内で使用する場合は、感度を下げ、コンピュータ、テレビ、電子レンジなどの機器からサーチコイルを離して使用してください。探知器が不規則にビーッと音を出す場合、機器や光源の電源を停止してください。

- 3) 9V角型のアルカリ電池、もしくは、充電地をご使用下さい(別売)。



技術用語について

マニュアルでは次の用語を使用しており、探知器ユーザーの標準技術用語となっています。

除外

金属が「除外」されているといったときは、指定した物体がコイルの検出範囲を通過した時に、探知器が音を出さず、また表示器も点灯しません。

識別

探知器が金属の種類ごとに異なる音を出す場合や、探知器が特定の金属を「除外」する場合に探知器が金属の種類を「識別している」と呼んでいます。識別は、プロフェッショナルな金属探知器の重要な機能です。識別により、ユーザーはごみやその他の望ましくない物体を無視できます。

遺物

遺物は、年代や時代との関連性から興味深い対象となります。遺物の多くは鉄でできていますが、青銅や貴金属でできている場合もあります。

鉄

鉄はありふれた低品質の金属で、ある金属の探知にとっては望ましくない物体となります。望ましくない物体の例としては、古い缶、パイプ、ボルト、釘があります。所望のターゲットが鉄でできている場合もあります。例えば、道標は鉄を含んでいる場合があります。貴重な遺物も鉄で構成されている場合があり、砲弾、旧式の武器、古い建造物や車両の部品も鉄で構成されている場合があります。

鉄系

鉄でできているか、鉄を含む金属。

ピンポインティング

ピンポインティングとは、埋め込まれた物体の正確な場所を発見する工程のことです。長期間埋め込まれた金属は周囲の土壌と区別がつかず、土壌から分離することは至難の業です。

プルタブ

飲料容器のプルタブは、探知器にとって最も厄介なごみです。プルタブは、形状や大きさがさまざまです。プルタブを探知から除外できますが、その他の貴重な物体には、磁気特性がプルタブに類似しているものもあります。プルタブを除外すると、これらの貴重な物体も除外される場合があります。

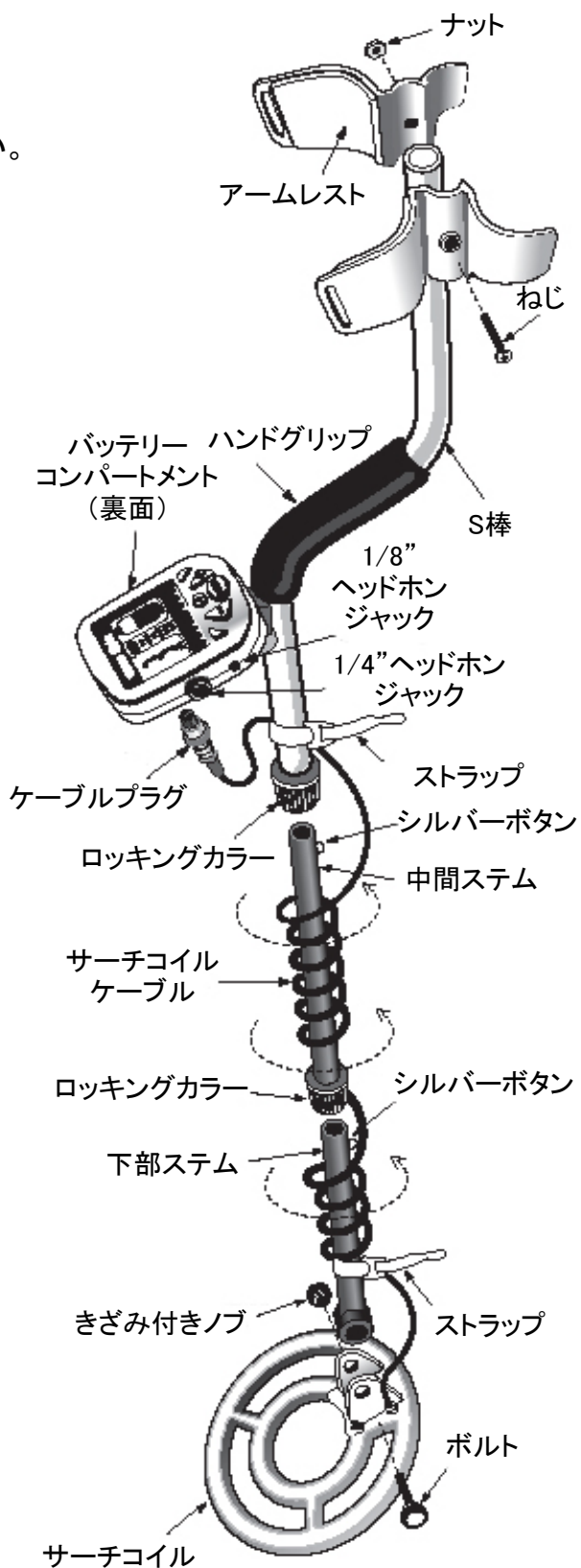
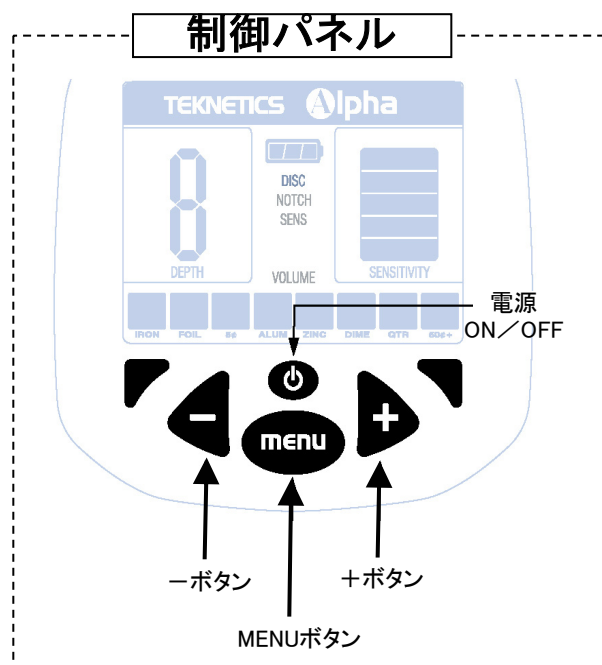
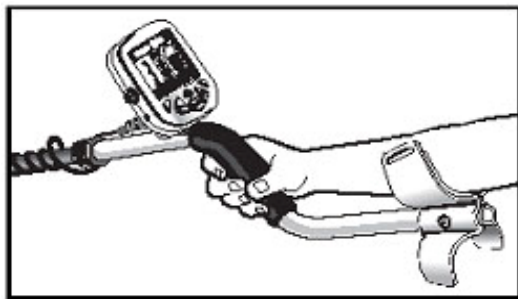
グランドバランス

グランドバランスとは、地球の天然鉱物を無視または「透過」し、金属物体を検出した時にのみ音を出す探知器の能力のことです。本探知器は、専有権のある回路を内蔵し、苛酷な地中条件から誤信号を除外できます。

組立(1)

アームレストの調整

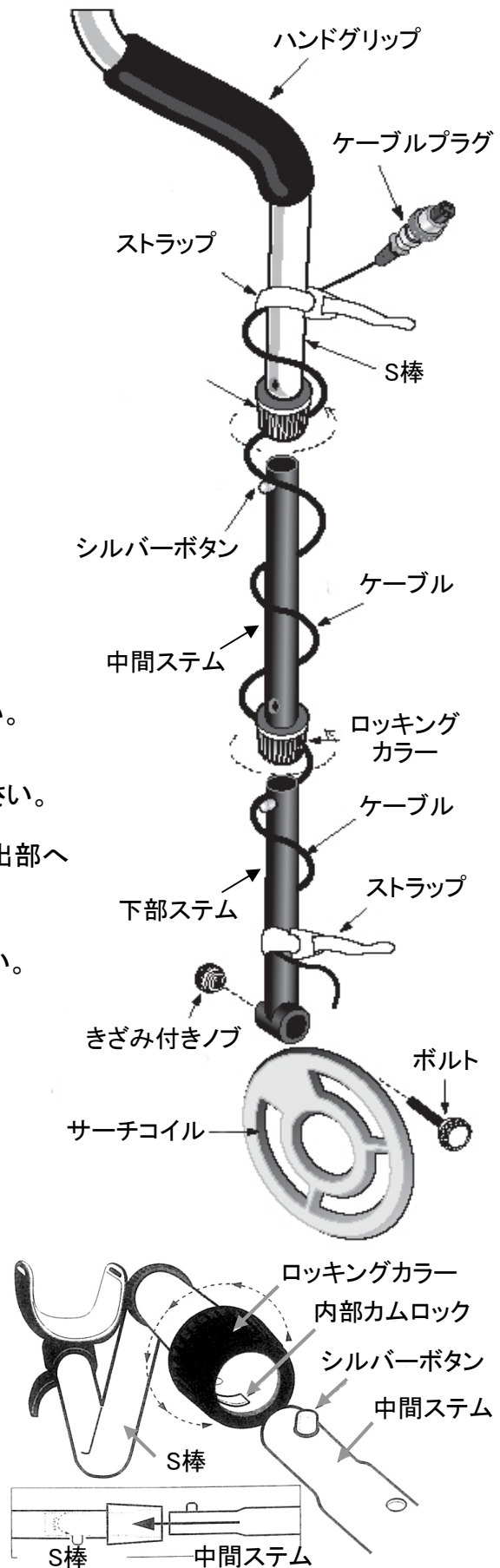
アームレストは前後に調整できます。
ねじとナットを取り外した後、
再度アームレストの位置決めをしてください。
腕が短いユーザーの場合、アームレストが
前方位置にある方が快適に使用できます。
アームレストを後方に調整するには、
アルミ管から末端のプラスチック栓を
取り外してください。



組立(2)

組立は簡単で、工具は要りません。

- ① 探知器をまっすぐ置いてください。
- ② 「ロッキングカラー」を反時計方向にいっぱいまで回してください。
- ③ 管内部へ指を差し込み、「内部カムロック」が管の内側と同じ高さであることを確認してください。
- ④ 「中間ステム」を「S棒」内へ差し込んでください。
- ⑤ 「シルバーボタン」が穴にはまるまで「中間ステム」を回してください。
- ⑥ 「ロッキングカラー」を時計方向に一杯までひねって固定してください。
- ⑦ 探知器が管3本とロッキングカラー2個で構成されている場合、「下部ステム」についても上記の手順を繰り返してください。
- ⑧ 「シルバーボタン」を後ろへ向け、「下部ステム」(まっすぐな管)を置いてください。「ボルト」と「きざみ付きノブ」を使用し、「下部ステム」から突き出たプラスチック突出部へ「サーチコイル」を取り付けてください。
- ⑨ 「中間ステム」の上端でボタンを押し、「中間ステム」を「S棒」内へ滑らせてください。まっすぐで楽な姿勢を維持できる長さまで「ステム」を調整してください。このとき、腕を体の側でゆったりとさせ、「サーチコイル」は前方かつ地面と平行にしてください。
- ⑩ 「ケーブル」を「ステム」へしっかり巻いてください。
- ⑪ ロッキングカラーを両方ともしっかり締めてください。
- ⑫ ストラップ2個でケーブルを固定してください。1個は下部ステムのコイルの近く、1個は上部ステムの表示器の近くに配置してください。



バッテリー

探知器には、9Vのアルカリ電池が必要です(電池は付属していません)。一般の亜鉛炭素電池を使用しないでください。

充電電池も使用できます。
充電電池を使用する場合は、ニッケル水素充電電池を推奨します。

表示器裏面に電池収納部が配置されています(バッテリーコンパートメント)。電池蓋をわきへ滑らせて取り外し、電池収納部を露出させてください。

バッテリーの寿命

9Vのアルカリ電池の場合、電池寿命は約20～25時間です。
充電電池の場合、充電1回当たり実働時間は約8時間です。

スピーカーの音量およびバッテリー充電

バッテリーセグメントが1つのとき、
スピーカーの音量低下が起きる場合があります。
セグメントが1つで点滅している場合、スピーカーの音量低下が顕著になります。

バッテリー表示器

バッテリーの残余寿命は、バッテリーアイコンの点灯率に比例します。
バッテリー表示器が点滅し始めると、探知器が10分以内に停止します。

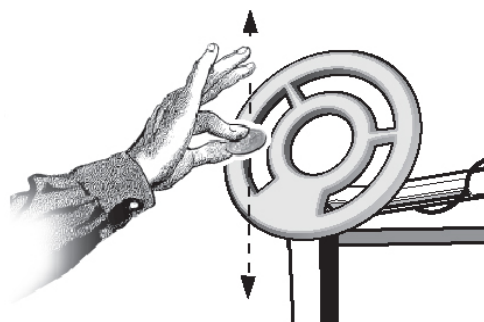
クイック起動のデモンストレーション

I. 必要なもの

- ・釘5cm位 ・亜鉛物体(ペニー貨(1982年以降)、5円硬貨等)
- ・銅物体(5セント白銅貨、25セント貨、10円硬貨等)

II. 探知器の位置決め

- 探知器をテーブル上に置いてください。サーチコイルはテーブルの縁で上方に向けて置いてください。より良い状況は、パートナーに探知器を支えてもらい、サーチコイルを地面から離してください。
- 壁や床、金属物体からサーチコイルを離してください。
- 腕時計や指輪、宝石などを外してください。
- 電磁波が妨害の原因となる場合は、光源や機器の電源を停止してください。
- サーチコイルを後ろ側に向けてください。



III. 電源投入: 電源ON/OFFボタンを押してください。



IV. サーチコイル上方で各物体を振ってください。

- 各物体に対する異なった音のトーンに注意してください
低音: 釘 中間音: 亜鉛ペニー貨、5セント白銅貨 高音: 25セント貨
- 各物体を動かす必要があります。
物体を検出するには、サーチコイル上方で動かさなければなりません。

V. 続いて、+ボタンを押してください。

- 「IRON」という単語がディスプレイ表示から消えます。



VI. サーチコイル上方で釘を振ってください。

- 釘は検出されません。
- 釘が「除外」されました。

VII. +ボタンをさらに4回押してください。

- 「FOIL」、「5¢」、「ALUM」、「ZINC」の単語が消えます。



VIII. 5セント白銅貨を振ってください。

- 5セント白銅貨は検出されません。

IX. menuボタンを押し、トグルを下げ「NOTCH」に切り替えてください。

続いて、+ボタンを3回押してください。

- 5¢がディスプレイに再度表示されます。



X. 5セント白銅貨を振ってください。

- 今回は5セント白銅貨が改めて検出されます。
- 5セント白銅貨が「記憶」されました。

金属探知の基本事項

金属探知器は、埋め込まれた金属物体の場所を突き止めることを目的としています。地下または地面で金属を探索する場合、次の課題と目標が挙げられます。

1. 地中の鉱物に由来する信号を無視する。
2. プルタブなど発見したくない金属物体に由来する信号を無視する。
3. 掘り起こす前に地中に埋め込まれた金属物体を特定する。
4. 物体の大きさと深さを推定し、発掘しやすくする。
5. 他の電子機器からの電磁妨害の影響を排除する。

これらの事柄を念頭に置いて、金属探知器は設計されています。

1. 地中の鉱物

すべての土壌は鉱物を含みます。地中の鉱物からの信号は、発見したい金属物体からの信号を妨害します。土壌によって地中の鉱物の種類、量が大きく異なる場合があります。探知器は自動グランドバランス機能を内蔵しており、ほとんどの種類の土壌からの誤信号を除外します。ユーザーによる調整は不要です。苛酷な土地条件（例えば金炭鉱場所の多くに見られる鉱物化の著しい土壌、赤粘土の土壌）からの誤信号に直面した場合、感度を下げてください。

2. ごみ

硬貨を探す場合、比較的音調が高い音を出します。しかし、この場合にアルミ箔、釘、プルタブなどの物体を無視したいものです。こうした望ましくない物体では比較的低い音調を出します。検出したすべての物体の音を聴き、発掘したい物体を特定できます。または、DISCRIMINATION(識別)機能を使用し、検出から不要な金属を除外できます。

3. 地中に埋め込まれた物体の特定

物体が変われば、探知器が出す音調も異なります(高、中、低)。ディスプレイ画面上では、左から右へ異なった表示に分類されます。

4. 地中に埋め込まれた物体の大きさと深さ

探知器からの物体の深さが、1桁の数字、0～228.6mm(0～9インチ)でディスプレイの左側に表示されます。物体の大きさは走査技術で特定します。

5. EMI(電磁妨害)

サーチコイルが磁界を発生し、金属物体が存在すると、この磁界が変化しますので、サーチコイルがこの磁界変化を検出します。探知器が発生する磁界は、他の電子機器が発生する電磁波も検出します。電力線、電子レンジ、照明器具、テレビ、コンピュータ、モーターなどはすべて電磁波を発生しますので、電磁妨害となります。金属が存在しない場合に探知器がピーツと音を出し、不規則にピーツと音を出す原因となります。

「感度」を調整することにより、サーチコイルの磁界強度を下げることができ、これに伴いEMIへの感受性を低減できます。最大強度で探知したいのに、EMI(電磁妨害)があるためにできない場合があります。探知器が不安定な挙動や「誤」信号に直面した場合、感度を下げてください。

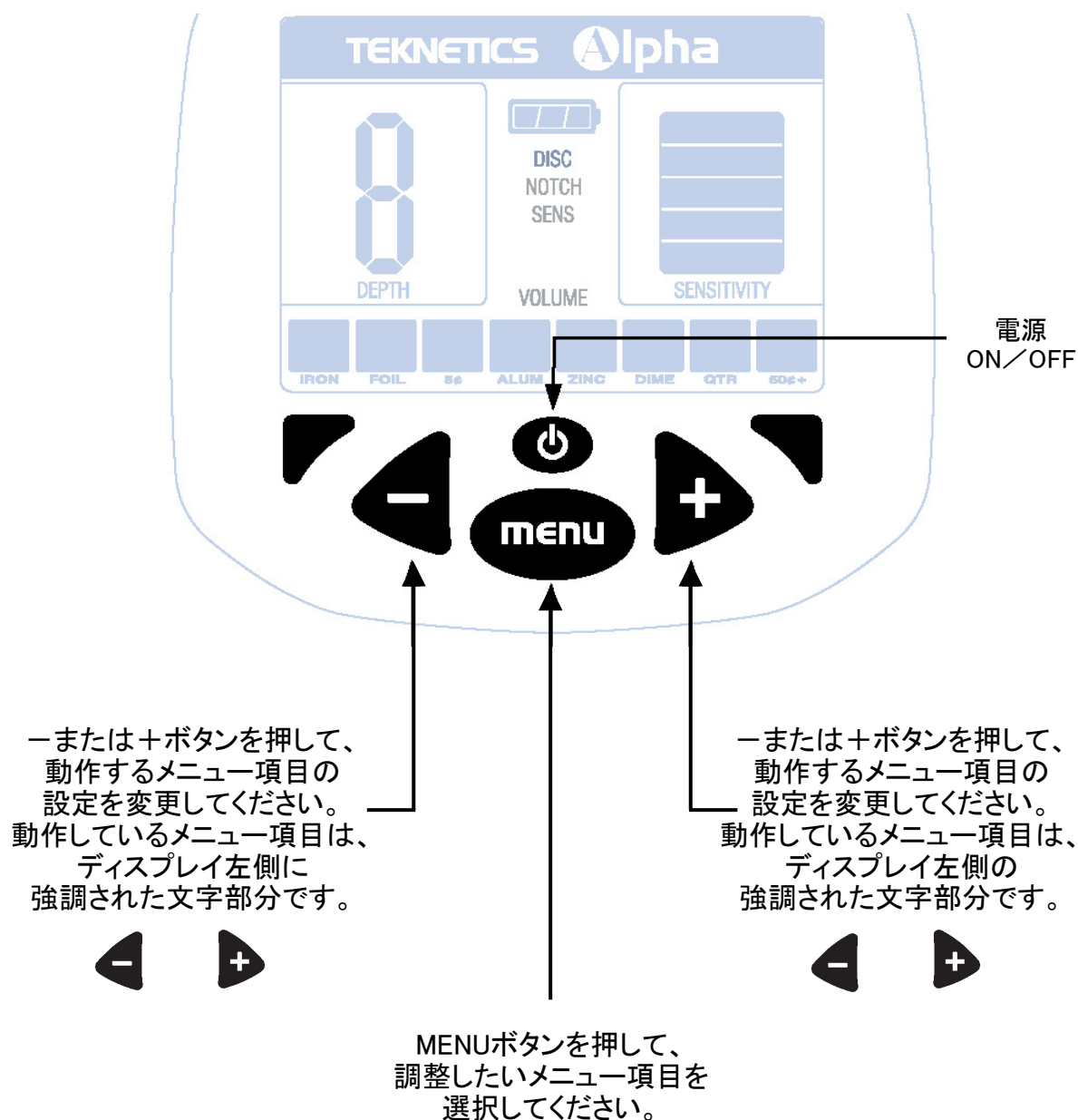
運転および制御部(1)

電源投入

電源ON／OFFボタンを押してください。

- ・探知器は、常にDISCRIMINATION(識別)機能が動作した状態で起動します。
金属を探知するにはサーチコイルを動かす必要があります。
- ・感度は最大70%です。
- ・ターゲットの種類の表示がすべて点灯します。
これはすべての金属物体が探知されることを意味します。

制御部の運転方法



運転および制御部(2)

メニュー選択

1. DISC

+と-の2つのボタンで「識別」のレベルを変更してください。
+ボタンを押すごとに、ターゲットの種類が探知から除外されます。
左から右へと除外されていきます。種類の名称(「IRON」など)が
ディスプレイから消えた時、その種類のターゲットは探知されません。



-ボタンを押すと、+ボタンとは逆に行われます。
-ボタンを押すごとに、ターゲットの種類の名称が再表示されていきます。
これは、その種類のターゲットが再び探知されることを示しています。

識別の機能は除外する対象を増やしていく方式です。
ターゲットはディスプレイ上で左から右へと除外されていきます。
+ボタンを押すごとに、探知から除外される物体が増えます。

2. NOTCH

ディスプレイに「NOTCH」が点灯するまでmenuボタンを押してください。
NOTCHの行が点灯表示されている間に、+と-の2つのボタンで
ターゲットの種類を「登録」または「除外」してください。



識別機能がすべてのカテゴリーを順番に探知から除外するのに対し、
NOTCH操作はターゲットの種類を選別して探知に含みます。
また探知から除外できます。

+と-の2つのボタンを押すごとに、登録する種類がディスプレイ画面上で
変わります。登録する種類の位置に移動すると、選択した種類の
探知状態を変更することになります。



- ・ターゲットの種類が前に除外されている(単語が表示されない)場合、
この種類を登録すると探知対象に戻ります。
- ・ターゲットの種類が前に登録されている(単語が表示される)場合、
この種類を選択すると探知対象から除外されます。

NOTCH機能では、1回に1つのターゲットの種類のみを選択します。

複数の種類を「登録」または「除外」するには、

NOTCH行が点灯表示されている間に再度menuボタンを押してください。

以後、menuボタンを押すごとに、登録を追加設定できます。

menuボタンから+ボタンを順に押すごとに、NOTCHプログラムが開始され、
IRON部分のステータスから変更されます。

いかなる場合も、ディスプレイ画面では、現在の種類の登録状況または
識別設定を表示しています。名前が表示されない種類は探知されません。



例えば、右図の設定は次のことを
表わしています。

- ・ALUMの種類が探知されます。
- ・上記以外のカテゴリー
(IRON、FOIL、5¢、ZINC、DIME、
QTR、50¢+)の
種類は探知されません。



3. SENSITIVITY

SENS行が点灯表示されている間に、+と-の2つのボタンで感度を増減してください。



横棒5本は最大感度を表します。

横棒1本は最小感度を表します。

探知器が不規則にビーッと音を出すか探知する金属物体がない時にビーッと音を出す場合、感度を下げてください。

サーチコイルが磁界を発生し、金属物体が存在すると、この磁界が変化しますので、サーチコイルがこの磁界変化を検出します。

探知器が発生する磁界は、他の電子機器が発生する電磁波も検出します。

電力線、電子レンジ、照明器具、テレビ、コンピュータ、モーターなどはすべて電磁波を発生しますので、電磁妨害となります。

金属が存在しない場合に探知器がビーッと音を出し、不規則にビーッと音を出す原因となります。

探知器が動作する深さは？

EA760FD-2Aは、25セント貨(φ24mm)など硬貨大の物体を探知します。

探知距離はサーチコイルから約228mm(約9インチ)です。

大型の金属物体の場合は数フィートの深さまで探知できます。

探知感度は、金属物体の大きさに直接関係します。

物体が大きいほど、深くまで探知できます。

ターゲットの識別精度も、サーチコイルからの距離に関係します。

距離が約200mm(8インチ)を超えると、ターゲットの識別精度が低下し始めます。

4. VOLUME

VOLUME行が点灯表示されている間に、+と-の2つのボタンでスピーカーの音量を変えてください。



音量設定の既定値は9です。また、最大値は9です。

最小値は0です(音量オフ)。

レベル1、2、3では、高い音調が少しだけ聞こえるか、聞こえません。

バッテリー電圧が低下するに従って、スピーカーの音量も低下します。

スピーカーの音量を最大にするには、音調1または2を使用してください。

低音とベースの音調がもっとも大きい音を出します。

ターゲットの識別

ターゲットは、音、ディスプレイの両方で識別します。

1. 金属の種類が異なれば、音の高さが変わる。
2. 最も該当するターゲットの種類内の表示が点灯する。

音によるターゲットの識別:

音により次のようにターゲットを識別できます。

低音

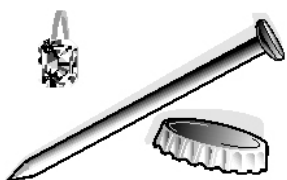
鉄などの鉄系物体。釘、ブリキ缶など。
最小の大きさの金の物体、スチールの瓶用キャップ。

中間音

最近のペニー貨（1982年以降のものは亜鉛で製造されています）。
大型の金片。小型の真鍮物体。瓶用ねじ式キャップのほとんど。
金属箔。プルタブ。5セント白銅貨。最近製造された米国以外の硬貨のほとんど。

高音

銀・銅貨。大型の真鍮物体。
古いペニー貨（1982年以前のもは銅で製造されています）。
10、25、50セント硬貨、1ドル硬貨。
スーザン B.アンソニー硬貨。サカガウィアドル硬貨。
押し潰したアルミ缶（硬貨よりも信号が強い）。

低音	中間音	高音
		
釘、小型金	プルタブ、5セント硬貨、 大小の金、亜鉛ペニー貨 （1982年以降）、 ねじ式キャップの多く	銅、銀、真鍮、 銅ペニー貨 （1982年以前）

音によるターゲット識別（ATI）は、金属を3つの種類に分けます。

深さ、ターゲットの表示

お使いの探知器のディスプレイを参照し、お使いのモデルに適用できる下記のターゲットの種類を参照してください。
(すべての探知器がこれらの種類をすべて内蔵するとは限りません。)

ディスプレイの読み取り

液晶ディスプレイ(LCD)は、ターゲット金属の識別と深さを表示します。

コイルの走査により埋め込まれたターゲットの場所の探知と識別した段階で、探知器は一貫してターゲットの識別を登録します。同じ地点上を繰り返し通過した時にターゲットの識別の読み取りが一貫していない場合、ターゲットはおそらく、ごみ、または酸化した金属です。
練習を重ねることにより、再現性のある信号のみを拾い出せるようになります。

ディスプレイに点灯表示された物体を探知する場合、識別はより高精度となります。反面、地中に埋め込まれた未知の物体をディスプレイ表示の種類に登録する場合、ディスプレイ表示の種類と磁気特性が同じでありながら異なる金属物体を探知している場合もあります。
また、ターゲットとコイルとの距離が大きくなるほど、ターゲット識別の精度は下がります。

GOLD TARGETS: 金の物体は、ディスプレイの中央または中央の左に登録されています。
金薄片はironの下に登録されており、小型金製品はfoilまたは5¢の下に登録されています。
また、大型金製品は中央に登録されています。

SILVER TARGET: 銀の物体は、ディスプレイの右でdimeの下または上に登録されています。

IRON: すべての大きさの鉄の物体は、ディスプレイの左端に登録されています。
これは、釘などの価値の少ない製品あるいは、貴重な歴史上の鉄遺物を示しています。

FOIL: ガム包みなどのアルミ箔はfoilとして登録されています。
プルタブの小破片もここに登録されています。

5¢: 最近の飲料缶のプルタブのほとんどで、缶からはずれないタイプのプルタブはここに登録されています。金の指輪の多くもここに登録されています。

ALUM: 缶から完全に切り離される旧式のプルタブはここに登録されています。
中くらいの大きさの金の指輪もここに登録されています。

PT(プルタブ): より旧式の飲料缶のプルタブはここに登録されています。また、新しいプルタブもごく稀にここに登録されています。金の指輪の多くもここに登録されています。

S-CAP: ガラス瓶からの旧式のねじ式キャップはここに登録されています。大型の金の指輪も登録されています。最近製造された米国以外の硬貨の幾つかもここに登録されています。

Zinc: 電気伝導度が中くらいの物体や最近製造された米国以外の硬貨の多くはここに分類されます。ディスプレイ右のターゲット識別の種類、
例えば、copper coins、10¢、DIME、25¢、Quarter、50¢、\$1は、これらの米国硬貨を高精度に識別します。米国以外の地域で使用する場合、これらの種類は、硬貨や電気伝導度の比較的大きい金属物体(銀貨や遺物など)、または、いずれかの種類の金属でできた大型物体を識別します。

深さの表示: 深さの表示は、硬貨大の物体の場合に高精度です。
ターゲットの深さ(インチ)を表示します。

大型物体や形状が不規則な物体では、深さの読取値の信頼性が低下します。

ある物体の上を通過する時、表示が点灯し、3秒間点灯したままとなります。
走査するたびに深さの表示が変動する場合、違った角度で走査してください。
複数のターゲットが存在する場合があります。練習を重ねることで、正確な読取値、複数のターゲット、ごみや形状が不規則な物体による一定しない読取値の違いを分別できるようになります。

実地技術(1)

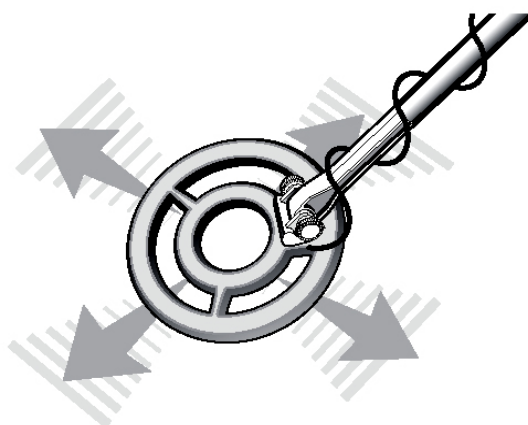
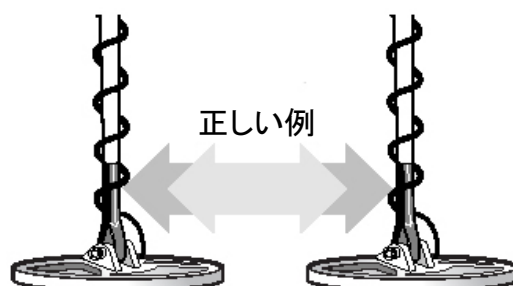
ピンポインティング

正確なピンポインティングには練習が必要であり、ターゲットエリアを「十字に横切る」ことで最も上手くできます。

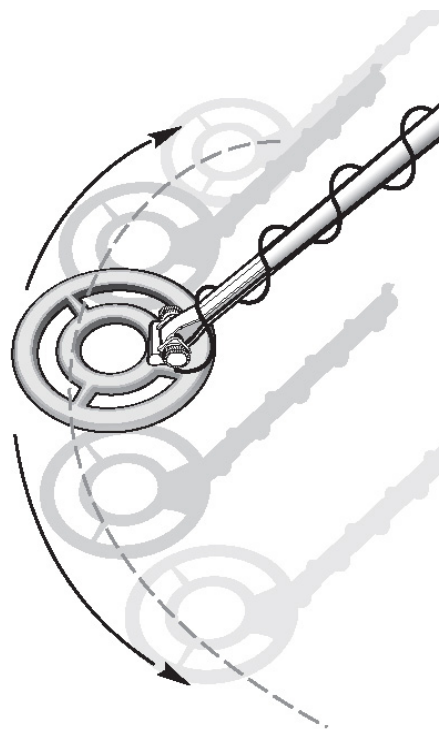
1. 1度、良好な音の反応で地中に埋め込まれたターゲットが示された場合、ターゲット上でコイルを短く左右に走査してください。
2. 「ビーッ」という音を発する地点の場所を目で確認してください。
3. この地点上でコイルを停止してください。
4. ここでコイルをまっすぐ前方に動かしてまっすぐ後方に自分の方へ戻す動作を2、3回行ってください。
5. もう一度、「ビーッ」という音を発する地点の場所を目で確認してください。
6. 必要な場合、ターゲットの地点を違った角度で十字に横切るようにし、「ビーッ」という音を発する場所の正確な地点を絞り込んでください。

コイルの動き

コイルを振る時には、地面から約25mm(1インチ)上で水平に保つように気を付けてください。決してコイルを振り子のように振らないでください。



ターゲットの場所を正確に突き止める場合、音が発する地点の上で、図解するように「十字」を描いてみてください。



実地技術(2)

サーチコイルをゆっくりと振ってください。前進するごとに走査を繰り返してください。重要なのは、探索時に一定の速度でコイルを走査することです。ターゲットを識別後、ターゲットの場所と材質の両方を識別するためにユーザーの走査技術が必要となります。信号が微弱な場合はターゲットエリア上で短く、素早くコイルを走査してみてください。このように短く、素早く走査することで、より一貫したターゲットの識別となります。

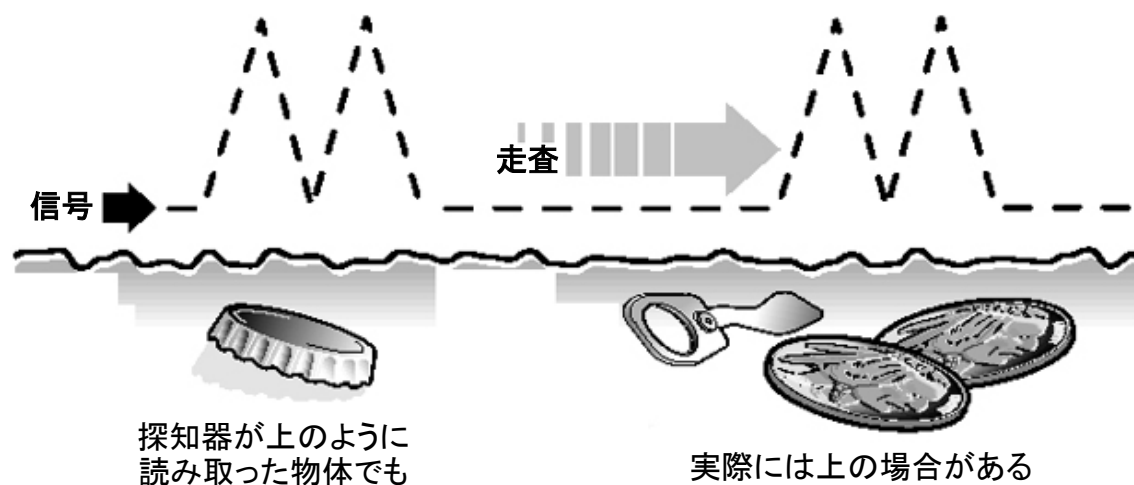
価値の高い物体のほとんどの場合、反応する際に繰り返し音を発します。数回、コイルをターゲットの疑いがある物体の上で走査した後も信号が繰り返されない場合、金属ごみの可能性が高いでしょう。

信号の繰り返し性や、ターゲットの可能性を検証するもう一つの方法は、ターゲットエリアを十字に横切る際に違った角度で何回も走査を行うことです。この方法を使用するには、ターゲットエリア周囲で30～40回、円を描くように歩き、ターゲットを横断しながらコイルを繰り返し走査してください。ターゲットの周りを1周歩き終えた時、違った10の角度で走査していることになります。高音のターゲット反応が所定の角度で探知から消える場合は、銀や銅の物体ではなく、酸化した鉄系金属を探知している可能性があります。違った角度で音調が変わる場合、複数の物体を探知している可能性があります。初心者には、最初のうちはターゲットをすべて発掘したいはずですが。実地練習を積むことで、探知器の応答から埋め込まれた物体を識別できるようになります。

進めていくうちに、いくつか誤信号に直面する場合があります。探知器がピーツと音を出しているのに金属ターゲットがない場合、誤信号が発生しています。誤信号は、電磁妨害や酸化、鉍物化が著しい土壌により誘発されます。探知器が1回ピーツと音を出し、同一地点でその後数回走査しても信号を繰り返さない場合、ターゲットはおそらく存在しません。

金属ごみの多い土地を探索する場合、狭い範囲をゆっくり、短く走査するのがベストです。探索する場所によっては、発見する金属ごみや金属箔の多さに驚くことでしょう。金属ごみの多い場所は大勢の人が常に出入りしていたと考えられるので、紛失した貴重品の多くを発見する見込みが最も大きいです。

サーチコイルは、地面と接触させず地面上方の位置で維持してください。地面と接触すると、誤信号の原因となります。



ヘッドホンジャック

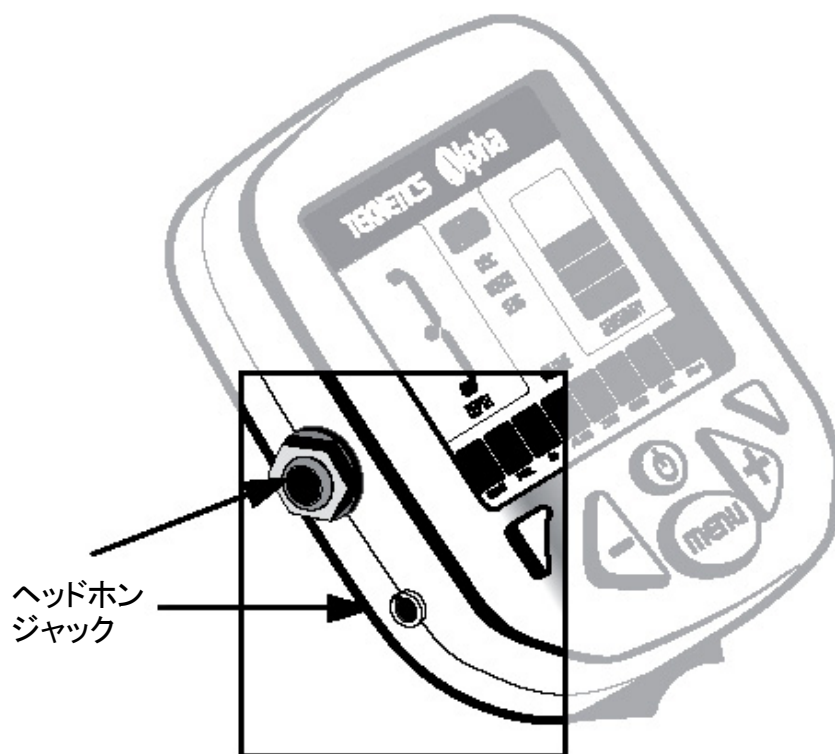
探知器は、表示部の左側に3.5mmと6.3mmの両方のヘッドホンジャックを設けています。

ヘッドホンジャックを接続時は、スピーカーを使用できません。

ヘッドホンの使用(ヘッドホンは付属しておりません)

ヘッドホン付きの探知器を使用すれば、極めて微弱な信号も容易に聞き取れ、バッテリーの寿命も長くなります。

とりわけ騒音の大きい場所で探索する場合、ヘッドホンを使用すると音の微妙な変化をより鮮明に聞き取れます。安全上の理由から、往来の近くやその他の危険が生じる場所ではヘッドホンを使用しないでください。この機器に使用する相互接続ケーブルまたはヘッドホンケーブルの長さは、3メートル以内としてください。



トラブルシューティング

トラブルシューティング手引き		
症状	原因	解決方法
・探知器ががたがた音を立てるか不規則にビーッと音を出す。	・探知器を屋内で使用している。 ・探知器を電力線の近くで使用している。 ・2台の探知器を接近して使用している。 ・周囲の電磁妨害	・探知器を屋外でのみ使用してください。 ・電力線から遠ざけてください。 ・2台の探知器を少なくとも約6m離してください。 ・不規則な信号が停止するまで感度を下げてください。
・低い音が続く、または繰り返し音が続く。	・バッテリーが切れかけている。 ・バッテリーの種類が合っていない。	・バッテリーを交換してください。 ・9Vのアルカリ電池または充電池のみを使用してください。
・ディスプレイが1つのターゲットの識別を行わない。 または、探知器が複数の音調を発する。	・複数のターゲットが存在する。 ・ターゲットの酸化が著しい。 ・感度設定が高過ぎる。	・コイルを地面と水平にし、先程とは違った角度でゆっくりと動かしてください。 ・信号が繰り返される場合のみ発掘してください。 ・感度を下げてください。
・電源が入らない。 音が出ない。	・バッテリー切れ。 ・コードがしっかり接続されていない。	・バッテリーを交換してください。 ・接続部をチェックしてください。

金属探知器の使用について:

- ・探索前に必ず法律や条例をチェックしてください。
- ・私有財産を尊重し、所有主の許可なしに私有財産へ立ち入らないでください。
- ・穴はすべて埋め直し、崩したままにしないよう注意してください。
- ・ごみ、くずを発見した場合は残らず取り除き、廃棄してください。
- ・天然資源の恵み、野生生物、私有財産を保護してください。
- ・くれぐれも歴史、考古学上の財宝を損壊しないでください。

株式会社 エスコ
 本社／〒550-0012 大阪市西区立売堀3-8-14
 TEL (06)6532-6226 FAX (06)6541-0929